



公益財団法人国際エメックスセンター / International EMECS Center

## エメックス国際セミナー

# 世界の閉鎖性海域 ～自然生態系と人間活動の調和を目指して～

## *EMECS International Seminar*

### *Enclosed Coastal Seas in the World - Sustainable Relationship between Natural Ecosystems and Human Activities*



日 時：平成27年6月19日(金) 午後1時30分～午後4時30分

会 場：兵庫県公館 1階 大会議室 (神戸市中央区下山手通)

主 催：公益財団法人国際エメックスセンター

後 援：兵庫県、瀬戸内海環境保全知事・市長会議、公益社団法人瀬戸内海環境保全協会、  
NPO 法人瀬戸内海研究会議、ひょうご環境保全連絡会、公益財団法人ひょうご環境  
創造協会、兵庫県環境保全管理者協会、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN)  
公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)

**Date/Time:** June 19, 2015 / 13:30 – 16:30

**V e n u e :** Hyogo Prefecture Guest House (Shimoyamate-dori, Chuo-ku, Kobe)

**Organizer:** International EMECS Center

**Supporters:** Hyogo Prefectural Government, Governors and Mayor's Conference on the Environmental Protection of the Seto Inland Sea, The Association for the Environmental Conservation of the Seto Inland Sea, The Research Institute for the Seto Inland Sea, Hyogo Environmental Conservation Association, Hyogo Environmental Advancement Association, Hyogo Prefecture Association for Corporate Environmental Conservation, The Asia-Pacific Network for Global Change Research, The Institute for Global Environmental Strategies

# プログラム

総合テーマ：世界の閉鎖性海域 ～自然生態系と人間活動の調和を目指して～

\*\*\*\*\*

13:30—13:40 主催者挨拶

13:40—14:00 【基調講演】

テーマ：陸域の人間活動と沿岸域の環境

講師：鈴木 基之（公財）国際エメックスセンター会長、元環境省中央環境審議会会長

14:00—15:55 【講演・パネルディスカッション】 座長：松田 治 広島大学名誉教授

14:00—14:25 <講演1>

テーマ：日本の沿岸域管理政策のレビューとこれから

講師：根木 桂三 環境省 水・大気局閉鎖性海域対策室 室長

14:25—14:50 <講演2>

テーマ：気候変動と北西ヨーロッパの持続可能な河口域管理

(原題)：Sustainable Management of Estuaries in North Western Europe in Response to Climate Change

講師：ジャン-ポール・デュクロトワ (Jean-Paul Ducrottoy) ハル大学名誉教授(フランス)

14:50—15:15 <講演3>

テーマ：中国・南水北調プロジェクト ～南の水を北へ～

(原題)：South to North Water Diversion Project of China：Feasibility and Challenge

講師：陳 中原 (Zhongyuan Chen) 華東師範大学教授(中国)

15:15—15:25 休憩

15:25—15:55 <パネルディスカッション>

座長：松田 治

パネリスト：根木 桂三、ジャン-ポール・デュクロトワ、陳 中原

15:55—16:15 【第11回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS11)のご案内】

(1) EMECS11のロシアでの開催意義について

～サンクトペテルブルクの洪水防止ダムとバルト海的环境管理政策～

講師：渡邊 正孝 中央大学研究開発機構教授、エメックス科学・政策委員会委員長

(2) 変動する世界における沿岸域・コミュニティのリスクマネジメント

(原題) Managing Risks to Coastal Regions and Communities in a Changing World

講師：ルーベン・コシヤン (Ruben Kosyan)

ロシア科学アカデミーシルシヨフ海洋学研究所南部支部

沿岸研究部リーダー、エメックス科学・政策委員会委員

ジョージ・ゴゴベリゼ (George Gogoberidze)

ロシア国立水文気象大学副学長

16:15—16:25 【環境研究プロジェクト：持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発】

講師：柳 哲雄 九州大学名誉教授、(公財)国際エメックスセンター特別研究員

16:25—16:30 閉会挨拶

# プロフィール

鈴木 基之 (公財) 国際エメックスセンター会長、元環境省中央環境審議会会長  
Prof. Motoyuki Suzuki

1969~2001年東京大学生産技術研究所にて環境化学工学の研究室を主宰。95~98年同所所長、01年退職・東京大学名誉教授。98~03年まで国際連合大学副学長(環境・開発部門担当)、03~11年は放送大学教授、2008~14年東京工業大学監事。研究領域は吸着工学、環境技術、持続可能な社会開発など。環境保全功労者表彰、国際水学会ジェンキンス賞など受賞。05~13年、中央環境審議会会長を務める。



松田 治 広島大学名誉教授  
Prof. Osamu Matsuda

1968年東京大学農学部水産学科を卒業後、1971年より広島大学で瀬戸内海や閉鎖性海域の研究と教育に従事、2003年より広島大学名誉教授。専門は水域物質循環論、沿岸環境管理や自然再生。北極海、南極海、熱帯域、南北太平洋などで幅広くフィールドワークを行っている。農林水産省生物多様性戦略検討会委員や環境省の中央環境審議会瀬戸内海部会企画専門委員会委員長、海域の物質循環健全化計画(統括)検討委員長、閉鎖性海域水質管理手法調査検討委員長等を歴任後、現在も中央環境審議会水環境部会総量削減専門委員会委員など数多くの委員の他、NPO法人瀬戸内海研究会議顧問に就任している。



根木 桂三 環境省 水・大気環境局 水環境課 閉鎖性海域対策室室長  
Mr. Keizo Negi

1995年 東北大学工学部卒業  
1995年 厚生省(現厚生労働省)入省  
2010年 環境省 水・大気環境局土壌環境課課長補佐(2011年より兼 除染チーム)  
2013年 環境省 水・大気環境局水環境課課長補佐  
2014年7月より現職



ジャンーポール・デュクロトワ ハル大学名誉教授(フランス)  
Prof. Jean-Paul Ducrottoy

沿岸海洋生態学者。フランスの大学を卒業、博士学位論文は「沿岸域・河口域環境の生態学的クオリティ」。ハル大学 河口・沿岸域研究所(イギリス)で25年間にわたり勤務。底生生物に関する研究は地元コミュニティや国内・国際組織に関係するオペレーションズリサーチに使われている。退職後はフランスへ戻り、北西ヨーロッパの河口域底生生物群とその管理に焦点を当てた研究を行っている。近著に「Ecological restoration of estuaries」(Lavoisier社)がある他、刊行中のシリーズ本「Estuaries of the World」(Springer社)を編集。沿岸域に関するフランス国家プログラム科学評議会メンバー、セーヌ河口に関する地域科学プログラム「Seine-Aval」の副代表。現在、ピカルディ・ジュール・ヴェルヌ大学で教鞭をとる。



陳 中原 華東師範大学河口海岸学国家重点実験室教授(中国)  
Prof. Zhongyuan Chen

華東師範大学河口海岸学国家重点実験室 教授  
メルボルン大学 地理学名誉教授  
地形学者であり、研究および指導分野は地理学、地形学、水文学、環境変動にわたる。地球圏・生物圏国際共同研究計画(IGBP)による海域相互作用研究計画(LOICZ)の科学運営委員会委員。学術誌“Geomorphology” “Estuarine, Coastal and Shelf Sciences”の編集委員を務める。





渡邊 正孝  
Prof. Masataka Watanabe

中央大学研究開発機構教授

京都大学工学部卒業。同大学院修士課程修了後マサチューセッツ工科大学（MIT）にて博士号取得。その後 MIT 研究員、国際応用システム解析研究所研究員、国立環境研究所水圏環境研究領域長、東京大学大学院農学生命科学研究科教授、慶應義塾大学環境情報学部教授を歴任。2014年より現職。

現在国連大学客員教授、中国科学院地理科学与環境資源研究所客員教授を併任。

2009年より EMECS 科学政策委員会委員長、2010年より UNEP アジア太平洋適応ネットワーク議長に就任。専門は数理生態学、環境資源管理政策、持続可能科学



ルーベン・コシヤン  
Prof. Ruben Kosyan

ロシア科学アカデミー シルショフ海洋学研究所南部支部  
沿岸研究部リーダー（ロシア）

1969年モスクワ大学卒業、物理学修士。1971年より現研究所に所属。1971-1974年同研究所在籍中に博士（物理学-数学）取得。学位論文のテーマは、波および海流による堆積物の移送の研究。1991年モスクワ大学にて理学博士（地理学）取得。学位論文のテーマは、沿岸域における砂の移送プロセス。

北大西洋条約機構（NATO）の黒海に関する3プログラム（波候統計、生態系モデリング、予測・運用データ管理）の運営委員会メンバー。その他、様々な国際組織やプロジェクトにおいて重要な役割を果たしている。



ジョージ・ゴゴベリゼ  
Prof George Gogoberidze

ロシア国立水文気象大学副学長（ロシア）

1993年ロシア国立水文気象大学にて海洋学修士、1996年博士号取得。2002年サンクトペテルブルク大学にて経済学修士を取得。1993年以降ロシア国立水文気象大学講師、助教授、主任科学研究員を経て、2012年より現職。

主な研究分野は沿岸域資源利用と開発プランニング・生態安全・人為的負荷の包括的見地、沿岸域の海洋経済可能性とその評価指針、沿岸域開発戦略、沿岸・海洋空間プランニング、沿岸域における地籍図・法・行政規則、他。

主な参加プロジェクト：ロシアの沿岸海域・内海モニタリングのための情報システムテクノロジーの開発（2011-2012）、黒海沿岸域の地生態リスク管理のための理論とテクノロジー開発（2010-2011） 他多数。



柳 哲雄  
Prof. Tetsuo Yanagi

九州大学名誉教授、（公財）国際エメックスセンター特別研究員

- 1972年3月 京都大学理学部卒業
- 1974年3月 京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程修了
- 1974年4月 愛媛大学工学部海洋工学科助手  
以後 講師、助教授、教授を歴任
- 1997年8月 九州大学応用力学研究所 教授
- 2013年3月 同大学を定年退職後、特任教授
- 2014年4月 同大学名誉教授、（公財）エメックスセンター特別研究員 現在に至る



この間、瀬戸内海、東京湾、伊勢湾、東シナ海、南シナ海など沿岸海域における物質輸送に関する物理・化学・生物過程の研究に従事する。また、2014年4月からは（公財）国際エメックスセンター特別研究員として、環境省が実施する「環境研究総合推進費」によるプロジェクト「S-13 持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」に研究代表者として取り組んでいる。